

「いのち」の教育実践事例

☆三川町立横山小学校の実践☆

生命の継承の
大切さに
関する教育

－ いのち輝く、たくましく生きめく心豊かな子どもの育成 －

横山小学校では、人や地域（自然）を大切にし、子ども発の活動を推進しています。上学年が下学年をリードして一緒に遊ぶ「なかよしデー」や、子ども同士認め合う活動を実施し、学年を超えた絆づくりや自己肯定感を高めることに取り組んでいます。また、全校をあげて「課題に気づく力」「協働する力」「自分を理解する力」に意識しての授業改善にも取り組んでいます。

課題に向かって友達とのコミュニケーションを大事にしながら、協働して学ぶことを通して、人に寄り添うことの大切さ・やり抜く胆力・自分のよさがわかる子どもたちを育てたいと思っています。

○ 6年生修学旅行 ～南三陸町で東日本大震災を学ぶ～

震災以来13年目となる南三陸町への修学旅行は、涙が自然にこぼれるほど、「いのち」と生きることについて深く考える機会となりました。全校児童から集めた募金を手渡し、横山小の善意を届けました。

○ 全校稲刈り

全校児童みんなで協力して稲刈りを行いました。地域の方々の協力を得て、春から育ててきた稲を1つ1つ手で刈り取りました。地域の方々のやさしさ、協力することの大切さを学びました。

○ なかよしデー

5、6年生が縦割班ごとに遊びを計画し、みんなで楽しい時間を過ごしました。高学年のリーダーシップ、下学年のフォロワーシップがすばらしかったです。



震災当時のことについて
真剣に耳を傾けます。



自分達を支えてくれている地域の方々の
ありがたさに気づくことができました。

なかよしデーの回数を重ねる中
で、関係性がどんどん築かれて
います。

